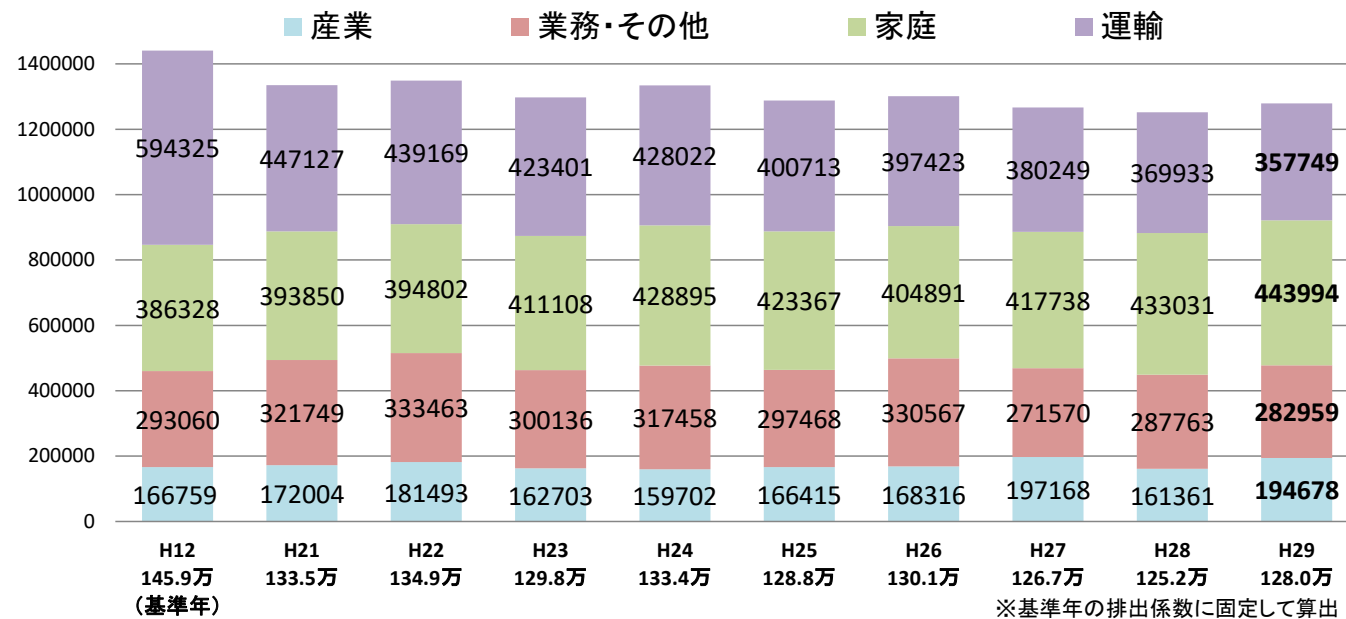


環境モデル都市の取り組みについて

1. 帯広市環境モデル都市行動計画の進捗状況

(1) 市内からのCO2排出量の推移(単位:t-CO2)



- 2017年(H29)の帯広市内のCO2排出量は、基準年である2000年(H12)比12.3%(17.9万t-CO2)減少の128.0万t-CO2となっている。
- 家庭部門が増加傾向にあり、基準年と比較して14.9%(5.8万t-CO2)増加、前年度と比較すると2.5%(1.1万t-CO2)増加している。これは、人口が減少している一方で世帯数の増加(基準年比約12,000世帯(約15%)増)による基礎的なエネルギー消費量の増加や電化製品の種類、保有台数の増加等が要因として挙げられる。
- 運輸部門では、自動車の燃費向上や低公害車の普及、軽自動車の増加などにより基準年と比較して39.8%(23.7万t-CO2)減少、前年度と比較すると、3.3%(1.2万t-CO2)減少している。

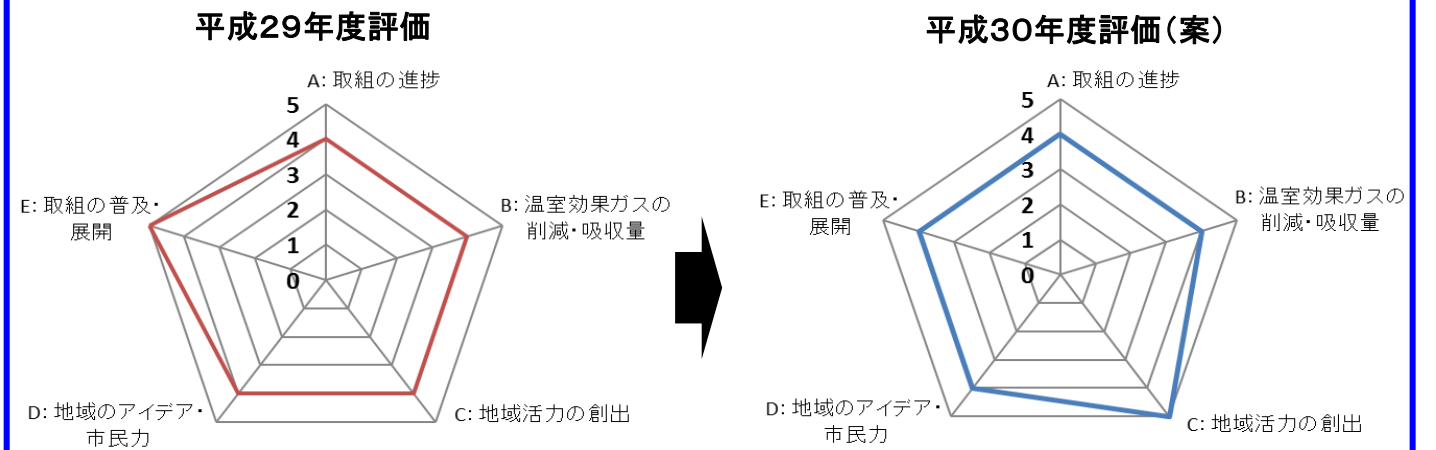
(2) 行動計画の取り組みによるCO2削減量の推移

	第一期					第二期				
	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
計画	27,137	44,814	61,404	78,998	120,957	139,997	158,452	176,832	197,210	224,294
実績	19,648	36,376	51,580	67,021	98,592	132,596	152,125	171,080	195,067	223,466
達成率	72.4%	81.2%	84.0%	84.8%	81.5%	94.7%	96.0%	96.7%	98.9%	99.6%

※当該年度の排出係数(変動値)を使用して算出

- 第一期行動計画の削減量は、計画値に対して8割程度の達成状況であったが、第二期行動計画では、着実に削減実績が伸び、ほぼ計画どおりに削減された。
- 農産物の残さなどを家畜飼料として活用する「エコフィード」の取組や家畜ふん尿の堆肥施用などの十勝・帯広の基幹産業である農業分野での取組による削減効果が、平成29年度は全体の約3割を占めており、大きな効果をもたらしている。
- ハイブリッド自動車などのエコカーの普及や省エネ高性能住宅の普及、適正な森林整備といった取組が順調に進んでいる。
- 一方、太陽光発電の普及や自動車燃料の天然ガス化といった一部の取組に遅れが見られる。

2. 平成30年度フォローアップについて



A: 取組の進捗【評価 4】

- 計画に掲げた取組55件のうち、評価a(計画以上に進捗)が12件、評価b(計画どおり)が38件、評価c(予定より遅れ)が4件、評価d(進んでいない)が1件であり、aとbが全体の約91%を占めており、概ね順調に進められている。(資料3参照)
- 農産物残さや家畜ふん尿などのバイオマスの利活用や森林整備によるCO2の吸収といった本市の地域特性を生かした農業分野での取り組みが順調に進んでいる。

B: 温室効果ガス削減・吸収量(H29実績)【評価 4】

- 温室効果ガス排出量は、基準年比で12.3%(17.9万t-CO2)減少。
- 取組による削減量・吸収量は、計画値197,210t-CO2に対して、実績値195,067t-CO2であり、達成率が98.9%に上昇。
- 削減量のうち、森林等による吸収量が96,866t-CO2を占めている。

C: 地域活力の創出【評価 5】

- 中島地区エコタウンの造成に向け、用地を取得し、緑地の整備に着手した。CO2の吸収や良好な都市環境づくり、動植物の生育環境維持に資するものである。
- エコフィードの利用促進及び家畜ふん尿の堆肥施用の取組により、飼料や肥料の輸送に伴う燃料使用量や廃棄物の削減が進むとともに、飼料自給率の向上による経営の安定化にも寄与している。
- 市内に長いも冷凍とろろ製造施設が完成した。農産物の域内加工や規格外品の有効活用が可能となり、原料輸送によるCO2排出削減や廃棄物削減、生産者の収益向上等に寄与する。
- 地元民間企業が開発した廃棄物系バイオマスを燃料として利用できる小型バイオマスパーナーの導入に向け、おびひろ動物園で燃焼実験を実施した。(使用燃料:使用済み割りばしチップ、小麦殻)

D: 地域アイデア・市民力【評価 4】

- 家庭用廃食用油のスーパー等での回収、庭木の剪定枝の回収、市民団体等による使用済み割りばしの回収、清掃ボランティアなど、市民参加型の取組が継続して実施されている。
- 平成13年度から継続してきた「環境にやさしい活動実践校」の取組が環境省主催「グッドライフアワード2018」の実行委員会特別賞「子どもと親子のエコ未来賞」を受賞した。

E: 取組の普及・展開【評価 4】

- 帯広市が継続して実施してきたマイカー通勤自粛の取組であるノーカーデーに加え、平成29年度より開始した「とかち市町村一斉ノーカーデー」により、帯広市だけでなく十勝管内の自治体職員が一丸となった率先実行によりマイカー利用自粛を推進している。
- ノーカーデーやマイカー利用自粛については、地元バス会社と連携し、バス内でのポスター掲示や車内放送により広く呼び掛けている。
- 地元ラジオ局と連携し、イベントやラジオ番組で国が推進している国民運動である「COOL CHOICE」の情報発信を行い、幅広い市民への普及啓発が図られた。